

# 富山経済同友会

会報

2026. 1月  
No. 328



第2回観光戦略委員会（県内視察）

## CONTENTS

- 海外経済視察報告会・12月会員定例会・年末懇親会… 2
- (トピックス)広島経済同友会による富山視察… 3
- 全国経済同友会代表幹事円卓会議 …… 4
- 第3回交流委員会 …… 5
- 第4回交流委員会 …… 5
- 第2回企業経営委員会 …… 6
- 第2回デジタル推進委員会 …… 7
- 第2回地域創生委員会（福岡視察）…… 8
- 第2回観光戦略委員会 …… 10
- 第3回文化芸術委員会 …… 11
- 第1回代表幹事イニシアティブ委員会 …… 11
- 第2回教育を考える委員会 …… 12
- 課外授業講師派遣 …… 12
- 富山県中堅教諭等資質向上研修 …… 13
- (トピックス)日本地域経済学会「学会賞」受賞… 13
- リレーエッセイ<sup>(129)</sup>（眞門 聡明 氏）…… 14
- 活動報告 …… 15
- 今後の予定 …… 17
- わが青春の1枚（山瀬 孝 氏）…… 18

# 残すに値する未来を考える

## ～ 海外経済視察報告会・12月会員定例会・年末懇親会 ～

12月8日(月)、令和7年を締めくくる12月会員定例会・年末懇親会を ANA クラウンプラザホテル富山にて開催。会員、来賓ら約200名が出席した。定例会前には、海外経済視察報告会も行った。

### ◆海外経済視察報告会

はじめに、第43回海外経済視察〔10月22日(水)～10月29日(水)、トルコ共和国〕について、交流委員会の島田好美委員長が報告した。

島田委員長は、まず、今回の視察概要として、視察団メンバーや視察行程、視察テーマを紹介。総勢22名が参加し、アンカラ・カッパドキア・イスタンブールを巡り、「観光振興・インバウンド対策」、「都市開発・スマートシティ」、「拡大する消費市場と企業進出」に関する先進事例を視察したことを説明した。



島田委員長

続けて、各訪問先の視察内容を報告。日本国大使館やトルコ商工会議所連合会で現地の経済情勢について知見を得たこと、災害緊急事態対策庁で見聞きした地震大国トルコの災害対応は防災庁の設置を目指す日本においても示唆に富むものであったこと、土日基金文化センターやアナトリア考古学研究所で日本とトルコの文化・学術的交流を体感したこと、IHI や丸紅の現地支店・事務所等を訪問しリアルなビジネス事情を、災害対応型公立病院やボスボラス海峡横断地下鉄等では都市インフラ整備を、観光開発庁では再度訪問したいと思わせる企画と積極的なPRなど観光振興策を学んだことを紹介し、富山の観光振興や防災等を含めたまちづくりに活きるヒントを得る有意義な機会となったことを報告した。



### ◆12月会員定例会

報告会に続いて、12月会員定例会を開催。慶應義塾大学環境情報学部 教授、LINE ヤフー(株)シニアストラテジスト、一般社団法人残すに値する未来 代表理事 安宅 和人氏が、「残すに値する未来を考える」と題し講演を行った。

安宅氏ははじめに、都市への人口集中により「このままでは都市にしか住めない未来が訪れる」と警鐘を鳴らした。人口が稠密的に存在する“都市”、それ以外を“疎空間”と



安宅 和人氏

定義し、疎空間が生き残るための条件として、エコノミクス、レジリエンス、求心力、文化・創造価値を挙げた。自然と対立せず、伝統や文化などその土地らしさを大切にする必要があること、疎空間にこそ「食」が重要であり、自然資源量を見極めながら森を育てる必要があること、絶景は死守すべきことなど、膨大なデータを基に富山の地名も挙げながら説明。

最後に、「疎空間でエコノミクスが回っていて、レジリエントであり、土地ならではの求心力があって、外部に開かれており多様な人が混ざり合う出会いがあると、そこに面白いことが生まれる。疎空間の価値や人の育成に財源を用い、好循環にもっていくことが大事である」と総括し、講演を締めくくった。

(講演詳細は、次号3月の会報に掲載予定)





## ◆年末懇親会

続いて年末懇親会を開催し、来賓に定例会講師の安宅氏をはじめ、富山県から新田八朗知事、広島伸一教育長、川津鉄三知事政策局長、田中雅敏経営管理部長、山室芳剛商工労働部長、富山県市長会から藤井裕久会長（富山市長）をお招きした。

まず、牧田代表幹事が「安岡正篤氏の瓠堂忌での講演の機会をいただき、牛尾治朗さんがリーダーの心得として『to do good（良きことを為す）』より『to be good（良き人と成る）』をめざせ、とおっしゃった話を思い起こしていた。自身、良き人に成ろうと努めているがなかなか難しい。いずれにせよ代表幹事として、経済同友会の活動が会員の皆さんにとって、価値あるものとなることを常に願っている」と開会の挨拶を述べた。

続いて、来賓を代表して新田知事が挨拶し、



牧田代表幹事

藤井市長会会長の発声により、当会では恒例となった地酒で乾杯が行われた。



新田知事

藤井市長会会長

最後に麦野代表幹事が「カターレ富山が奇跡の残留を果たしたように、これからは若者が時代を変えて行く。私たちは、エネルギー、食、経済、コミュニティを自立させ、テクノロジーと文化が融合し、住民が誇りと物語を共有できる『風の谷』の創造に向けて、協力し助け合いながら頑張っていきましょう」と語り、懇親会を締めくくった。



麦野代表幹事



## 広島経済同友会による富山視察 — 富山企業の先進的な取組みに学ぶ —

11月20日(木)から21日(金)にかけて、広島経済同友会ウェルビーイング推進委員会の佐々木孝富委員長（オタフクソース(株)代表取締役社長）ら21名がウェルビーイングに関する先進的な取組みを視察するため富山を訪れた。



東出 悦子 氏

初日は、(株)アイベックを訪問し東出悦子氏（(株)アイベック代表取締役・旧ウェルビーイング小委員会委員長）より、ファシリテーションを取り入れた組織づくりや、フリーアドレス制、資格取得支援制度などの取組み内容について学んだ。その後の懇親会では、旧ウェルビーイング小委員会の役員3名を囲んで、活発な意見交換が行われた。



佐々木委員長

2日目は(株)北陸銀行を訪問。これまでの広島経済同友会との交流の経緯から、麦野代表幹事が冒頭挨拶し、その後(株)北陸銀行の担当部署から人的資本経営をテーマに、社員の活躍や挑戦する風土づくりに向けた具体的なアクションプランについて説明がなされた。視察を通じ、参加者からは「大変学びの多い視察であった」との声が多く寄せられた。



# 各地同友会代表幹事が集い松山市で開催

## — 全国代表幹事円卓会議 —

2025年度全国経済同友会代表幹事円卓会議が、11月10日(月)に、全国の各地経済同友会代表幹事をはじめ総

勢134名が参加して、愛媛県松山市のANAクラウンプラザホテル松山で開催され、当会からは麦野英順代表幹事、牧田和樹代表幹事が参加した。



(公社)経済同友会代表幹事代行の岩井睦雄氏から開会挨拶と空席となっている代表幹事選考委員会について説明があり、その後、開催地である愛媛経済同友会の山口晋代表幹事から歓迎の挨拶があった。

議事は今年度の全国経済同友会セミナー(広島大会)の決算案、来年度の全国セミナー(高知大会)の企画・予算案や第40回(2028年)全国セミナー(滋賀大会)の開催日程について協議され、第41回(2029年)全国セミナーの開催地に鹿児島が承認された。続いて、IPPO IPPO NIPPON 能登半島支援活動の寄附申込状況についての説明がなされ、続いて、神奈川経済同友会から2027年の国際園芸博覧会の紹介、最後に2026年度の全国経済同友会代表幹事円卓会議は東京での開催となる旨が説明された。

その後、「共創の時代へー地域が“稼ぐ”未来をつくる」のテーマで、(公社)経済同友会

の岩井睦雄代表幹事代行をモデレーターに、愛媛県知事 中村時弘氏、元サッカー日本代表監督で(株)今治夢スポーツ代表取締役、今治明徳学園 学園長の岡田武史氏をパネリストにパネルディスカッションが行われた。

中村愛媛県知事は、地域経済の活性化に行政も意識・組織を変える必要があるとし、県庁内に地場産業の市場開拓等の商社機能を果たす営業本部を設置したこと、しまなみ海道を活かしサイクリングの聖地化を進めていること、県庁内に官民共創拠点を設置したこと等を紹介し、「まちを輝かせるにはそこに住む住民が地域の価値を知ることが一番大事だ」と述べた。

岡田氏は、ビジョン・ミッション実現のために民設民営でスタジアムをつくり、経営を黒字化し、増築を図っていること、今治明徳学園長としては、ロールモデル、前例のない時代に、子どもたちが自分で考え行動する主体性を身に付ける教育を目指していること等を紹介し、「トップが思いを持って発言、行動、決断することが重要だ」と述べた。

なお、会議に先立ち、船舶用電気機器分野で日本国内トップシェアの「BEMAC(株)今治本社」の視察があった。





# 第44回海外経済視察に向けて

## — 第3回交流委員会 —

11月17日(月)、第3回交流委員会（島田好美委員長）を事務局会議室にて開催し、委員9名が参加し、今年度の海外経済視察（訪問国：トルコ共和国、期間：10月22日～10月29日）の振り返りと来年度の海外経済視察について検討した。

冒頭、島田委員長が挨拶し、議題へ。まず、第43回海外経済視察に参加した感想として、「メリハリのある行程でよかった」「通訳を要する視察先は、余裕をもった時間確保が必要」「ホテルの部屋の割振りは均等に」等、良かった点や改善が必要な点について意見が出され、次年度に向けた反省とした。



島田委員長

次に、来年度の第44回海外経済視察について、アンケート（正副代表幹事、常任幹事、幹事、各委員会正副委員長、交流委員を対象に、関心

のあるテーマや関連する国・地域に関して、10月に実施）結果も参考に、視察テーマと訪問国の検討を行った。「観光戦略」「経済情勢」の各テーマを軸に、フランス・ポルトガル・北欧のヨーロッパ方面の国々を候補とし、富山の地域課題解決のために参考となる都市を訪問すべき等の意見が出された。また、アンケートでは期間に関する意見もあったことから、参加する行程を“前半のみ”“全行程”のいずれか選択できるように工夫してはどうかとの声も挙がる等、活発な議論がなされた。



# 企画プロポーザルの検討

## — 第4回交流委員会 —

第4回交流委員会（島田好美委員長）を12月4日(木)、事務局会議室において開催し、委員12名が参加した。

島田委員長の挨拶からはじまり、これまでの議論に加え、訪問先の検討方法やテーマの具体化、国際便の手配方法等について意見を出し合った。富山の地域課題として、北陸新



島田委員長

幹線の開通から利便性は向上したものの、通過点となってしまっているといった問題があることなどから、観光地周辺で、単なる通過型から滞在型観光へのシフトに成功した都市がないかなど、地元に見学を還元できるような有意義な

視察となるよう検討を進めた。

今後、行程や具体的な視察先等について旅行業者から提案を受け、旅行業者選考のための企画プロポーザルを実施することとして、提案にあたっての基本要件等を取りまとめた。最後に、伊東担当役員が挨拶し締めくくった。





# GX を経営の力に

## — 第2回企業経営委員会 —

第2回企業経営委員会（山田恵子委員長）が11月17日(月)、オークスカナルパークホテル富山で開催され、会員44名が参加した。富山県の「令和7年度富山型GX推進事業」と連携し、北陸銀行の協力のもと「GXから企業の未来を考える—脱炭素をチャンスに変える、経営の新たな一手—」をテーマに講演会とパネルディスカッションを実施した。



山田委員長

冒頭で、富山県商工労働部成長産業推進室エネルギー政策課長・須藤大輔氏が、カーボンニュートラルの潮流とGHG排出量開示義務化の広がりを紹介。県として企業のGX推進を後押しする姿勢を示した。

第1部講演会では、Persefoni Japan 合同会社 気候変動スペシャリストの高野惇氏が、世界的規制強化やサプライチェーンへの開示要請を背景に、GXは企業価値と直結する



高野 惇 氏

「前提条件」と指摘。気候変動対応はコスト要因ではなく、競争力や事業機会を拡大する“攻めの経営”であると述べた。

第2部講演会では、富山県エネルギー政策課より、県が作成した「富山県版GX取組み手引書」を紹介。中小企業が段階的に取り組むための基礎知識から実務的なポイントまで整理されており、積極的な活用を促した。

続くパネルディスカッションでは、「企業戦略とGXの融合」をテーマに、具体的な実践と経営への活かし方について深い議論が行われた。進行役の島田善朗氏（㈱北陸銀行）が各社の現状を問う形で始まり、船橋修氏（大平洋ランダム㈱）は、省エネ設備導入や再エネ活用を通じたCO<sub>2</sub>削減の取組みを紹介。初期投資や運用面のハードルを挙げつつも、生産効率向上や顧

客からの評価向上につながった点を強調した。

打本純也氏（福井鋳螺㈱）は、スコープ3への対応を見据えたサプライチェーン全体での脱炭素の重要性を指摘。素材選定、物流改善、取引先との情報共有を通じ、環境とコストの両立を図る取組みを紹介した。「脱炭素は単独では進まない。取引先との対話こそが鍵」と述べ、協働の必要性を強調した。

福井信英氏（㈱プロジェクトデザイン）は、GXを新たな価値創造の源泉として捉える視点を提起。社会課題をゲーム化して分かりやすく伝える仕組みを紹介し、楽しみながら学べる体験を通じて、課題解決を新規事業へつなげる可能性を示した。



モデレーターの高野氏は、3氏の事例がGXの多様な可能性「効率化」「協働」「価値創出」を示したと総括し、脱炭素は企業の成長戦略に直結する重要テーマであり、早期の取組みが競争優位につながると強調した。

プログラム全体を通じて、県内企業がGXを経営にどう取り込み、競争力につなげるかを考えるうえで大きな示唆を与える機会となった。委員会終了後の懇親会では、講師やパネリストを囲んで活発な質疑応答が行われ、学びを深める有意義な機会となるなど、盛会のうちに終了した。





# DX のリアルをシェア

## — 第2回デジタル推進委員会 —



西田委員長の挨拶

12月1日(月)、ホテル JAL シティ富山1階カフェコントロールにおいて、第2回デジタル推進委員会(西田美樹委員長)を開催。委員ら41名が出席した。

冒頭、西田委員長は挨拶の中で、今回の開催趣旨を説明。富山県による支援や既知の委員らの取組み等の身近な事例を知る二部構成の企画を通して、最初の一步、次の一步につなげるきっかけとしてもらいたい、と話した。



山室商工労働部長

第一部では、富山県の山室商工労働部長より、「富山県のDX推進の取組み等について」と題しご講話いただいた。県経済の好循環加速化に向け生産性向上を図るためDX推進等に対し県独自の「攻めの支援」を展開することを紹介するとともに、県内のデジタル化の状況や様々な県のデジタル化・DX関連事業等について説明。人材不足が深刻化する中で省力化・省人化につながるデジタル技術の活用は必要不可欠と説き、「まず、なにかから？」の相談窓口・支援拠点について案内したうえで、「県の支援策を存分に活用いただき、ともに明るい未来を築いていきたい」と話した。

続いて、第二部では委員による事例紹介を実施。嶋委員(㈲ジェイシーバール取締役社長)、福田委員(㈱日立製作所北陸支社長)、山田委員(山田工業㈱取締役社長)の3名にご協力いただき、「デジタルを活用した経営課題解決につながる自社の取組みについて」をテーマに、各社の事例を紹介いただいた。導入しているデジタルツール・技術や導入分野の紹介に加え、対外的に展開・提供するAIソリューション・サービスについても紹介いただき、さらには取組みの効果や課題、最初の一步へのアドバイス等、足元のリアルな実情について話を伺うことができた。



嶋委員



福田委員



山田委員

第一部・第二部をととして足元の身近なDX推進の情報に触れた出席者からは、活発な質疑が挙がり、最初の一步、次の一步に向けた有意義な議論が交わされた。





# 地域創生の最前線に触れる

## — 第2回地域創生委員会（福岡視察） —

11月20日(木)～21日(金)、第2回地域創生委員会（橋本淳委員長）を開催し、委員22名が参加。国際競争力の強化に向け取組みを進め発展を遂げる福岡市を訪問し、「産学官連携」「規制緩和」「地域ファンド」の観点から、地域経済活性化に向けた先進的取組みの数々を視察した。

### 〔11月20日(木)〕

#### ① 福岡国際空港(株) (FIAC)

FIACは、コンセッション方式による福岡空港民営化以降、地域や地元経済界との連携のもとで空港運営・環境整備を担っている。現在、FIACが進める国際線ターミナルの増改築、アクセス環境の整備、国内線複合施設の整備等は、福岡ひいては九州の経済発展・観光活性化に資するものであり、地域住民を含む空港利用者以外の方々にも親しまれ地域の魅力向上に寄与するものとして注目されている。

吉岡執行役員より、空港の概況と併せそれら多様な取組みについて説明を受けた後、一行は、実際に国際線ターミナルを案内いただき、「東アジアトップクラスの国際空港」を目指し整備が進む現場の様子を視察した。



#### ② 福岡地域戦略推進協議会 (FDC)



FDCは、福岡の新しい将来像を描き、地域の国際競争力を強化するために地域の成長戦略の策定から推進までを一貫して行う、産学官民一体のThink & Do タンク。福岡都市圏を核として、九州さらには隣接するアジア地域との連携を図り、会員主体のプラットフォームを構築、事業性のあるプロジェクトを推進している。

石丸事務局長より、「産学官民連携で考える未来のまちづくりに向けて」と題し、FDCの概要、福岡のまちづくり、FDCの特徴・アプローチについて説明を受けた一行からは、FDC設立の背景から運営のノウハウ、FDCが果たす「リエゾン（連携・橋渡し）機能」の詳細に至るまで活発に質疑が挙がり、石丸事務局長・前田事務局次長の丁寧なレクチャーにより、効果的な産学官民連携に向けた貴重な知見を得ることができた。

#### ③ Fukuoka Growth Next (FGN)

FGNは、官民協働型のスタートアップ支援施設。グローバル創業・雇用創出特区である福岡市の強力な支援と民間企業の連携により、創業を志す方のサポート、創業後もスタートアップに対し集中的な支援を行い、福岡を代表するロールモデルとなる企業の創出を目指している。

旧大名小学校の校舎を活用した館内には、シェアオフィスやコワーキングスペース等、アイデアとネットワークが生まれる創業支援スペースが整備されている。一行は、そのオープンで心地よい空間を視察して廻り、起業家と支援者が集まり活気あふれる空間を体感した。



#### ④ CIC Fukuoka

世界に展開するイノベーションキャンパスCIC（ケンブリッジ・イノベーション・センター）の福岡拠点。世界に繋がるイノベーションの発信基地として、スタートアップのグローバルでの成長を支えとともに、世界中のイノベーター・投資家・企業が高密度に集うイノベーション・コミュニティ





を創出している。

FDCの前田事務局次長・武内事務局長補佐のご案内で、福岡市の大規模再開発事業「天神ビッグバン」の一環としてオープンした「ONE FUKUOKA BLDG.」に入る拠点を訪問した一行は、清水ゼネラル・マネージャーによるレクチャーの後、入居企業のピッチを体験するとともに、コミュニケーションやコラボレーションを誘発する多彩な仕掛けが施された館内を見学し、世界最高水準のイノベーションキャンパスの活気を体感した。

## ⑤ MCP アセット・マネジメント(株)

MCPグループは、香港に本社を置くアジア最大級の独立系オルタナティブ投資運用グループ。国際金融都市構想を掲げる、産学官によるオール福岡の推進組織「TEAM FUKUOKA」より誘致を受け、福岡に拠点を設置した。福岡・九州で活動しESGの取組みに寄与する実証実験を終えたステージのスタートアップ向けにファンドを立ち上げ、投資先企業の成長や海外進出を後押しする投資を行っている。

福岡市国際金融機能誘致担当の岡崎課長ご同席のもと、MCPの片岡ディレクター・天野ディレクターより、福岡進出の背景やファンド運用の実態について詳しくご説明いただくとともに、地域経済活性化におけるスタートアップ支援の意義等、多様な側面からご教示をいただいた。



**[11月21日(金)]**

## ⑥ 福岡市

福岡市は、アジアとの地理的近接性や若い都市構造を背景に、産学官連携、規制改革、資金循環等を一体で推進し、スタートアップ支援やイノベーション創出、大規模都市開発等、国際競争力の強化に向け多角的な施策を展開している。

前日に続き岡崎課長にご協力いただき、「日本『最速』で進化する地方都市のポテンシャル」と題し、福岡市の概況、スタートアップ支援を含む短・中・長期の成長戦略、次のステージとして目指す国際金融都市構想について詳しくご説明いただくとともに、財政局アセットマネジメント推進部の安藤課長、住宅都市みどり局みどり推進部の小島課長よりそれぞれ、福岡市が推進する官民協働事業の取組みについてご紹介いただいた。



2日間にわたる今回の福岡視察は、「地域創生の最前線」に触れる、極めて充実したものとなった。

### ＜福岡市長表敬訪問＞

視察の最後に、高島福岡市長を表敬訪問しました。面談では、官民連携においてそれぞれに求められる役割、改革を進める際のポイント、リーダーシップの在り方等、市長自らのご経験談やご見解をお伺いでき、今後の委員会活動に大きな示唆をいただく大変貴重な機会となりました。





# 観光を通じた地域づくりを学ぶ

## — 第2回観光戦略委員会 —

第2回観光戦略委員会（酒井郁生委員長）を12月16日（火）に開催し、会員25名が参加した。

今回は、富山県西部でDMO（観光地域づくり法人）とDMC（収益事業を担う会社）の両面で事業を展開している「水と匠」のプロデュースのもと、観光地域づくりを学ぶため、砺波市の散居村に佇むアートホテル「楽土庵」や、前田家や豊臣秀吉などの大名ゆかりの品々や美術工芸等1万点以上の宝物を所蔵している「城端別院善徳寺」、善徳寺研修道場を改修した泊まれる民藝塾「杜人舎」、ウィスキー文化をより豊かなものへと変えていけるよう様々な挑戦を続ける「三郎丸蒸留所」を視察した。

杜人舎の講堂では、（一社）富山県西部観光社「水と匠」プロデューサーで、（株）水と匠代表取締役の林口砂里氏に「観光を通じた地域づくりについて」と題し、ご講演いただいた。

林口氏は、「水と匠」の活動について、富山の「土徳（人と自然がつくりあう土地の精神風土）」という価値観をブランディングの中心に据え、文化の体験やサステナビリティを



林口 砂里 氏

重視するモダン・ラグジュアリー層やクリエイティブ層をターゲットに設定し、楽土庵や杜人舎などの宿泊施設の運営、体験プログラムの開

発を行い、国際的な独自のプロモーション活動に注力していると説明した。

また、地域の屋敷林の剪定枝を利用して精油を抽出し、アロマミストとして開発・販売し、東京の高級ホテルのスパ等に納品したり、大量に廃棄されているお米の粃殻を使った有機肥料やアウトドア用品を開発する等、観光収益を散居村の保全や地域資源の活用につなげる好循環を重視し、観光を通じて地域の活性化と再生（リジェネラティブ・ツーリズム）を目指して活動していると述べた。

視察後、若鶴大正蔵で行われた懇親会では、多くの委員が林口氏に質問する等交流し、盛会のうちに終了した。



楽土庵（外観）



楽土庵（内観）



城端別院善徳寺



若鶴大正蔵





# 温泉×映画を軸とした地域文化事業を体感する

## — 第3回文化芸術委員会 —

12月14日(日)、黒部市芸術創造センター「セレネ」大ホールにおいて、第3回文化芸術委員会（近藤裕世委員長）を開催し、委員18名が出席した。

セレネでは、冬の宇奈月温泉で「あたたまる」をコンセプトに、富山にゆかりのある長編映画と世界選りすぐりの短編映画を上映する「黒部シアター2025冬」に参加し、パリを拠点に活動する富山市出身の平井敦士監督の映画「ゆ」と「フレネルの光」2作品を鑑賞した。映画鑑賞後、平井監督のアフタートークでは、映画製作を通じたまちづくりについて知見を深めた。平井監督は故郷である富山市水橋での映画製作を通して、地域の風景や文化を映像に刻むことで、文化的な記憶を保存し地域のアイデンティティを守ることに繋がること、近所の人々が集まり一つの活動に取り組み、完成後に地元で上映会を開催したことで、地域コミュニティを活性化させ

地域の魅力を再発見し、シビックプライドを醸成する効果があったことなどを話した。また、アーティストが特定の地域に滞在して創作活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス（滞在型制作）」のフランスや京都の事例を紹介し、海外の作家がその土地で作品を作ることで、その地域の魅力が世界へ発信されるきっかけになると説明した。

その後、宇奈月温泉「延楽」に場所を移し、懇親会を行った。平井監督も挨拶に訪れ会員と交流し、盛会のうちに終了した。



平井監督と共に



# 日本海サミット委員会始動

## — 第1回代表幹事イニシアティブ委員会 —

12月23日(火)、第1回代表幹事イニシアティブ委員会が開催され、委員20名が参加した。本委員会は、今年7月に富山で開催される「日本海沿岸地域経済同友会サミット富山大会」に向け、代表幹事からの諮問を受け、日本海沿岸地域が果たすべき役割等についてアピール文を取りまとめることを目的に設置された。

開会にあたり棚田委員長は、南海トラフ地震や首都直下地震など大規模災害による国家機能低下のリスクを踏まえ、日本海側が日本全体を支えるための役割を整理し、具体的な



棚田委員長

アピール文として発信する方針を示した。活動期間は約3か月、全3回の委員会で集中的に議論し、富山大会で成果を発表する計画。続いて

大橋担当役員から、日本海サミットの設立経緯と位置づけについて説明がなされた。同サミットは平成20年に富山で始まり、地域連携により日本の課題解決を図る場として発展してきた。今回の富山大会では、太平洋側被災時に日本海側が果たす補完機能が重要なテーマとなる。



大橋担当役員

意見交換に先立ち、三井住友海上火災保険(株)の森栄自氏が大規模地震の発生確率や被害想定を示し、社会構造の変化に伴う新たな防災課題を指摘した。意見交換では、代替拠点や物流・情報のバックアップ拠点としての日本海側の可能性が議論され、委員会名称を「日本海サミット委員会」とすることが承認された。



# 私学は教育界のスタートアップ

## — 第2回教育を考える委員会 —

12月3日(水)、インテックビルにて第2回教育を考える委員会(寺島雅峰委員長)を開催し、委員13名と、富山大学や富山県教育委員会、県立・私立高校等からオブザーバー16名が参加した。

冒頭、寺島委員長が「経済人・企業人として、教育現場に対してどのような手伝いができるかを考えるために今年度はいろいろと学びたい。公私比率が撤廃されたが、公立・私立ともに切磋琢磨して互いの良い所を新しい高校教育に取り入れてほしい」と挨拶。

荒井副委員長の紹介で、学校法人長野日本大学学園 理事長、長野日本大学幼稚園・小学校・中学校・高等学校 園長・校長 添谷 芳久氏を講師に迎え、『『若い』校長による挑戦と覚悟の学校改革～私学は教育界のスタートアップ～』と題し講演が行われた。

添谷氏は、38歳にして当時の日本大学付属校



寺島委員長

の最年少校長に就任し、最初の5年は指定校推薦枠確保に努め、現役進学率を95%まで向上させたこと、6年目からは理想の教育を目指し、「探究創造学科」の創設や国際バカロレア教育の導入、中1～高3までの異年齢による校外探究学習の実施等、先進性・先見性・卓越性をもってあらゆることに挑戦していることを紹介した。また、コロナ禍も転換点となり「学校の当たり前を疑うことが、当たり前になった」と語った。

最後に、人口減少や私学無償化、公私比率の撤廃など、公立・私立学校を取り巻く環境の大きな変化に触れ、「公立・私立がともにグランドデザインを描きながら次のステージを考えることが大事」と締めくくった。

私学だからこそできる挑戦と、その覚悟をもった教育改革に刺激を受ける有意義な機会となった。



添谷 芳久 氏



## — 課外授業講師派遣 —

### 第7回 黒部市立石田小学校

11月28日(金)、横山栄一郎氏(横山冷菓株式会社取締役)が黒部市立石田小学校において、6学年23名に対し「アイス屋のおやじが伝えたいこと」と題して課外授業を行った。

はじめに、「皆さんが未来を思い描く手助けとなれば」と自身も石田小学校出身であることに触れながら、学生時代や社会人になってからの経験を語った。

続けて、アイスクリームの製造過程を企画・開発から試作、フリージング、原料調達、生産、品質検査など順を追って説明。開発から商品ができるまで約半年、大企業であれば約1年要する等、商品ができるまでの苦労や思いを伝えた。また、児童との対話を交えながら、アイスクリーム業界は市場



が拡大し続けていると説明した。

そして、「私たちはアイスクリームを通じて幸せを提供します」という自社の企業理念を紹介し、幸せの形はみんな違うが、従業員や顧客、地域の方々に幸せを届けられる会社でありたいと話した。子どもの頃からアイス屋になることが夢であったが、アイス屋の社長になった今は、誰かの役に立てるように、みんなが幸せな社会になるように頑張りたいという想いが強くなったと熱く語った。

最後に、自身の経験から「勉強すればするほど、将来の選択肢を増やすことに繋がる。時間を戻すことはできないので一瞬一瞬を大切にしたい自分像に向けて一直線に突き進んでほしい」と母校の児童にエールを送り講演を締めくくった。



横山 栄一郎 氏



## 「リーダーシップとは—その時代にあったリーダー像を求めて」

### 富山県中堅教諭等資質向上研修にて講演

11月19日(水)、土屋誠氏（日本海ガス(株)取締役会長）が富山県中堅教諭等資質向上研修（県教育委員会主催）において、11年次教諭約200名に対して「リーダーシップとは—その時代にあったリーダー像を求めて」と題し講演を行った。

はじめに、昨年度まで委員長を務めた教育問題委員会の活動として、教員との交流事業を実施したことや教育長に対し提言書を提出したこと、またその内容を紹介した。

続けて、リーダーシップについて、「多様な考えを持つ人がある中で、組織として同じ方向を向くには誰かが意識を変える必要がある。リーダーにとってこの点が最も大切であり、難しいことだと感じている」と語った。また、リーダーとして



“次のリーダーを育てること”を大切にしてきたとし、「相手に対し敬意をもって接することが、周

囲に受け入れられる秘訣ではないか」とこれまでの経験から所感を述べた。

土屋 誠 氏

さらに、“自分の力になってくれる人が外部にどれだけいるか”ということもまたリーダーの資質として必要であるとし、「生まれながらにリーダーの資質を備えている人はおらず、経験を積み、様々な人と出会い影響を受けることで、リーダーシップを育むことに繋がる」と熱く語った。

最後に、①社会の変化に負けることなくチャレンジを続け、故郷を大切にする子どもたちを育ててほしい、②自分ひとりでできることは限られているので、仲間を大切に力と力を合わせてほしい、そして③各人が「年齢」「経験」「立場」に敬意を払えば必ず組織はうまくいく、と期待を込めて受講者へメッセージを送った。自らの誇りと称する従業員のエピソードを挙げ、「責任感と使命感をもって仕事をしてほしい」と講演を締めくくった。



## 森田弘美氏 日本地域経済学会「学会賞（書籍の部）」受賞

森田弘美常任幹事（株）グループフィリア 代表取締役）が執筆された著書『資本の性格と地域制度—富山・新潟・福島近代電力産業に関する比較分析』（日本経済評論社、2024年）が、日本地域経済学会の「学会賞（書籍の部）」を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

授賞理由は以下の通りです。

本研究では同じような条件でスタートし、発展してきたと考えられてきた地方でも経済発展に差異があるとすればそれはなぜか、どこで発展経路の違いが生じたのかを、富山県、新潟県、福島県を事例に、それぞれの地方の近代化を牽引した資本の性格に焦点を当てて検討し、電力産業に関する地域比較分析を行った。

社史などの様々な資料を渉猟して、産業革命期における地方資産家の投資判断や行動などが歴史的に形成されてきた地域社会の制度的要素に規定され、新しい制度にも引き継がれたことを明らかにした。

従来の研究では明らかにし得なかった各地域の経営風土を膨大な資料を用いて実証的に記述分析した。



受賞日（令和7年11月29日）



## 私の2025年回顧

眞 門 聡 明

(株式会社インテック 代表取締役副社長執行役員)

「人の一生は重荷を負て、遠き道をゆくが如し。いそぐべからず。(中略) 勝事ばかり知りてまくる事しらざれば害其身にいたる。おのれを責めて人をせむるな。及ばざるは過ぎたるよりまされり」という遺訓でも有名な徳川家康公を祀る東照宮は日光の他に上野と静岡にもあります。昨年はこの3か所の東照宮に参拝する機会に恵まれました。日光東照宮は公共交通の便もよく、上野東照宮は東京・上野にあり、ともに行きやすいものの、静岡の久能山東照宮は海岸に近い高台の日本平にあり訪問し辛く長らく機会に恵まれなかったのですが、昨年9月、念願叶ってついに訪れることができました。久能山東照宮や家康公のお墓等を拝観した後に観覧した徳川記念博物館には、幾多の展示物が陳列されていましたが、その中で、勝海舟作「戊辰之詩」に目が留まりました。幕末の三舟とも呼ばれる海舟の達筆な掛軸を読み解くだけの素養はないものの、海舟の書を眺めながら現代語訳を読むと、「戊辰之詩」には勝海舟の大政奉還前後の思いが書かれているようでした。海舟は、江戸城無血開城の立役者、東京を戦火から守った人物として有名ですが、この詩については、“混乱の極みにあった幕末において、勝海舟が冷静かつ強い意志を持って国の舵取りをしようとしていたことを示す資料であり、海舟の「公」に徹する姿勢と、同志たちへの真摯な呼びかけが感じられる”と生成AIによる評価ができました。江戸・徳川時代の創始者である徳川家康公を祀る久能山東照宮に参拝して偶然出会った勝海舟の幕末の思いを詠む書。江戸幕府の始まりと終わり、その絶妙のコントラストに深く感じ入りました。

昨年10月には、瑞龍寺の参拝時に、ガイドの方の説明を聞くことができました。印象深かったのは、瑞龍寺の荘厳な木造建築もさることながら、ガイドの方が開口一番話した、前田利家公の遺訓「天下人になるな。天下人は必ず滅ぼされる」です。調べると、「さしでがましい者を取り立てず、控え目なる者を登用する」という内政的なものや、「武門とは信義の番兵であり、人の生涯は心に富を蓄えるためにある」という文武両道的な遺訓もあると分かりました。越中富山は加賀の分家であり、控え目な県民性はより一層強くでるのではないかと、富山県人の県民性の源流を垣間見たような思いになりました。

戦国の世に艱難辛苦の末、成功を収め将来の安泰を願った家康公、利家公の遺訓の共通点として一つ挙げられるのは意外にも「控え目を尊ぶ」教えではないのでしょうか。幕府や藩あるいは家の永続を望んだ始祖の思いがこめられた遺訓と、その遺訓から250年以上の時を経て戦火を避けて時代を変えることに心を砕いた革新的な偉人の思いに触れることができ、大変感慨深い還暦の一年となりました。

最後になりますが、昨年7月に発表の通り、弊社は本年7月に新会社「TISI 株式会社」となります。さらなる成長とベストパートナーを目指しつつ、引き続き“ITで、社会の願いを叶える”べく取り組んで参る所存です。

( 次号は(株)OSCARホールディングス  
代表取締役社長 藤谷弦一郎様です。 )



# 活動報告

11月1日～12月31日

## ○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
12月8日(月) 17:00～20:40 ANAクラウンプラザ ホテル富山	海外経済視察報告会・会員定例会・年末懇親会 講師：慶應義塾大学環境情報学部 教授 LINE ヤフー(株) シニアストラテジスト (一社) 残すに値する未来 代表理事 安宅 和人 氏 演題：「残すに値する未来を考える」	約200名

## ○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
11月5日(水) 18:30～21:00 松原建設(株)	地域創生委員会 第6回正副委員長会議	・第2回委員会（福岡視察）について ・今後の予定と役割分担について	11名
11月6日(木) 15:00～20:00 パッシブタウン黒部	文化芸術委員会 第4回正副委員長会議	・第3回委員会（12/14）について ・次年度視察（豊岡市）について	8名
11月17日(月) 15:15～16:45 事務局会議室	第3回交流委員会	・第43回海外経済視察振り返り ・次年度海外経済視察について	9名
11月17日(月) 17:00～20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	第2回企業経営委員会	・第1部講演会 講師：Persefoni Japan (同) 気候変動スペシャリスト 高野 惇 氏 演題：「GXを企業の成長につなげる」 ・第2部講演会 講師：富山県商工労働部 成長産業 推進室 米澤 卓也 氏 演題：「GX取組み手引書のご紹介」 ・パネルディスカッション テーマ：「企業戦略とGXの融合」	44名
11月20日(木) ～21日(金) 福岡県福岡市	第2回地域創生委員会	・国家戦略特区における 地域経済活性化の取組みについて 視察先：福岡国際空港(株)、 福岡地域戦略推進協議会、 Fukuoka Growth Next、 CIC Fukuoka、MCP、福岡市	22名
11月28日(金) 11:00～13:00 事務局会議	人財育成・活躍委員会 第2回正副委員長会議	・第2回委員会について	9名
12月1日(月) 17:00～20:00 カフェコントレイル	第2回 デジタル推進委員会	・講話 「富山県のDX推進の取組み等につ いて」 (講師：富山県商工労働部長 山室 芳剛 氏) ・委員による事例紹介 「デジタルを活用した経営課題解決 につながる自社の取組みについて」	41名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
12月3日(水) 17:00～20:15 インテックビル	第2回 教育を考える委員会	講師：(学)長野日本大学学園 理事長 長野日本大学幼稚園・小学校・ 中学校・高等学校 園長・校長 添谷 芳久 氏 演題：「『若い』校長による挑戦と覚悟 の学校改革～私学は教育界のス タートアップ～」	13名
12月4日(木) 16:00～19:20 事務局会議室	第4回交流委員会	・旅行者選定プロポーザル内容の 検討について	12名
12月9日(火) 18:30～21:30 カフェコントレイル	地域創生委員会 第7回正副委員長会議	・第2回委員会（福岡視察）振返り ・今後の予定について ・講演会（講師：株式会社 PoliPoli 代表取締役 伊藤 和真 氏）	11名
12月14日(日) 黒部市芸術創造センター	第3回文化芸術委員会	・黒部シアター2025冬 ・平井敦士監督アフタートーク	18名
12月16日(火) 南砺市	第2回観光戦略委員会	・富山県西部の観光地域づくり視察 視察先：楽土庵 城端別院善徳寺、杜土舎 三郎丸蒸留所 ・講話「観光を通じた地域づくりにつ いて」（榎水と匠 林口 砂里 氏）	25名
12月19日(金) 11:00～12:30 事務局会議室	教育を考える委員会 第3回正副委員長会議	・第3回委員会について ・教員との交流事業について ・次年度活動計画について ・アンケートの実施について	4名
12月22日(月) 11:00～12:30	デジタル推進委員会 第3回正副委員長会議	・第3回委員会について ・次年度の活動計画について	4名
12月23日(火) 16:30～19:30 事務局会議室	第1回代表幹事 イニシアティブ委員会	・活動方針・活動計画について ・現状認識・論点整理 ・委員会略称について	20名
12月25日(木) 15:00～16:00 事務局会議室	代表幹事イニシアティ ブ委員会（日本海サミ ット委員会） 第1回正副委員長会議	・第2回委員会について	5名

## ○課外授業講師派遣・教育講演講師派遣

開催日	派遣先	対 象	出席者
11月19日(水)	富山県中堅教諭等資質向上研修	11年次教員 約200名	土屋 誠 氏
11月28日(金)	黒部市立石田小学校	6 学年 23名	横山 栄一郎 氏



## ○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月10日(月)	2025年度全国経済同友会代表幹事円卓会議	愛媛県松山市	麦野代表幹事 牧田代表幹事
11月11日(火)	第12回関西・北陸交流会	ホテルグラン ヴィア京都	牧田代表幹事

## ○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月2日(日)	富山マラソン2025 開会式	高岡市役所前	麦野代表幹事
11月6日(木)	第1回とやまスタートアップ戦略会議	オンライン	麦野代表幹事
11月15日(土)	富山県日韓親善協会創立50周年記念式典・ 祝賀会	とやま自遊館	牧田代表幹事
11月20日(木)	第2回富山市総合計画審議会	Toyama Sakura ビル	麦野代表幹事
12月16日(火)	あいの風とやま鉄道利用促進協議会	富山県民会館	上田事務局長 (代理出席)
12月24日(水)	富山マラソン2025 第2回実行委員会	富山県民会館	上田事務局長 (代理出席)

## 今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
3月19日(木)	幹事以上	3月幹事会	富山電気ビルディング
3月19日(木)	全会員	3月会員定例会 講師：(株)ホットリンク 創業者&元 CEO Socialgist Inc. CEO 内山 幸樹 氏	富山電気ビルディング
4月8日(水)	幹事以上	4月幹事会	富山電気ビルディング
4月16日(木) ～17日(金)	全会員	第38回全国経済同友会セミナー（土佐経済同友会）	高知県高知市
4月23日(木)	全会員	2026年度定時総会・懇親会	A N A クラウンプラザ ホテル富山

### 〔表紙写真〕

#### 第2回観光戦略委員会（県内視察）

富山県西部の観光地域づくりを視察するため、12月16日(火)砺波市・南砺市を訪れました。  
集合写真は城端別院善徳寺にて。

### 発 行 所

#### 富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階  
電 話 (076) 444-0660  
F A X (076) 444-0661  
e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp  
https://www.doyukai.org/



カンボジア責任者  
OUK VATHNA さんのバイクの  
後ろに乗ってガッツポーズ



パナソニック・カンボジアの社員の皆様と研修



## バイクに乗って活動した日々

株式会社ジェック経営コンサルタント 取締役社長

山瀬 孝

この写真は2018年10月現地パナソニック・カンボジア様のご支援をしていた時の写真です。パナソニック様が創業100周年を迎えるにあたり、現地法人がSNSにて発信した写真です。（この写真を私が使用する許可を得ています。）この時、SNSのタイトルは「私たち（パナソニック）は日本人講師を招き、社員教育を行っています。日本品質です。」というものでした。当社は2015年 JICA の事業スキームを活用し、カンボジアに進出しました。現地では、カンボジア政府の経済産業機関とともに食品製造業の生産性向上、安心・安全な製品づくりの講習会を全国で行っていました。現地企業の支援をすることが主なテーマでしたがパナソニック様のような大手日系企業のご支援も行っていました。（日本ではこのような大企業から声がかかることはありません。）パナソニック様は韓国企業、ドイツ企業と熾烈な市場競争を展開しており、その一端で当社に声が掛かりました。成長率7%の経済で凌ぎを削るグローバル企業たち、私はワクワクしながらそれを応援して、日本人の

所作を現場で指導しました。業績は非常に伸びたことを鮮明に覚えています。世界の大手企業の熾烈極まりない競争する姿を近くで見ることが出来たことは非常に新鮮でした。

しかし、コロナ禍で全てがゼロになりました。日本では補助金で救済してくれることに有り難さを感じながら、現地は政府の支援は一切無く、現地企業の社員たちは即座に解雇され、彼らは田舎に帰ったと聞きます。当社は現地社員の雇用を守り支援を続けてきました。2年が経ち、現地社員とともにゼロからの出発です。2023年4月プノンペン中心部にアップルパイのお店をオープンして、現地事業の自立化を目指しています。コロナ前からいた社員たちは、アップルパイ店の経営者、店長、職人として新たなスタートをきりました。目指すはカンボジア国内で50店舗です。最近では過去のお客さんも戻り、コンサルも再開しています。中にはカンボジアナンバーワンとなった醤油会社もあります。今後も青春はまだ続きます。ありがとうございました。